

「合気道と私」

氏名： 山田 昌輝 (111期)

1. 入部の動機

北野高校合気道部に入部した動機は、中学時代に合気道部で3年間練習し、他のスポーツもやってみたいと思いつつも、やはりまだまだ合気道を続けてみたいと思ったところが大きかったことです。また、1年上の学年の先輩方に女性が多く綺麗だったことも大きい要因かと思われます。

2. 天之武産合気道との出会い

入部初期は屋外での練習のイメージが大きく残っています。屋外では受身が取れないため、技の練習より木刀と杖を多く練習していた気がします。畳での練習が少ないことに不満を持ちつつも、溝脇先輩、高杉先輩等々頻繁に練習に参加して頂いた先輩方から力に頼らない気の力を体感させて頂いてからは不思議さとその謎からどんどん合気道にのめり込んでいきました。

以前の新北野中学での合気道部では中学3年で初段取得、播磨で参加した演武大会では準優勝し、少し慢心が出ていました。しかし、阿部先生・天之武産合気道を体感してからは本当に「氣」を感じることができ、今までの物理的な合気道で満足していた自分が恥ずかしくなりました。

その様な事もあり、それからは物理的な内容よりも丹田・氣を意識した練習を行い、積極的に道場の先生方、溝脇先輩・高杉先輩等に稽古をつけて頂く様になりました。

内容的には合気道の練習を離れて10年以上経つので多く思い出せませんが、「足は親指を意識して畳を掴みこむようにしっかりと地面に立ち、手は小指を意識し円を描くように誘導していく」と御指導頂いた事を一番覚えており、当時、特に意識をして練習を行いませんでした。

3. 太刀取り

合気道を練習する目的は合気道の道を究めることにあると思いますが、高校時代のクラブでは練習の集大成として2年時の文化祭での演武発表が一区切りになっていました。「二人取り」では高橋君、安藤君と練習しましたが、やはり思い入れは取りを行なった「太刀取り」が深いです。

入部当時から部長より「来年の『太刀取り』は山田で。」と言われて、入部時から常に意識していた記憶があります。

そのため太刀取りの取りでも太刀振りが重要と思い、屋外の練習でも屋内の練習でも太刀にこだわり、少なくとも同期では一番木刀を振りました。普通の木刀、軽めの木刀、櫛

のような重たい木刀。こう書きながら思い出すが、非常に懐かしい。木刀を振る時は振る数よりも時間をかけて一振り一振りを真剣に振るように心がけました。一振りの残像を思い出して、振り出しから切る瞬間、振り下ろしまでを毎回毎回細心の注意を払い、微調整を行い、ある程度満足のいく振りができるまで振り続け、帰りませんでした。特に「相手に悟られないような振り出し」と「切先さんずいで切れるイメージ」を注意した記憶があります。

4. その後

高校を卒業してからは実家が十三ということもあり、1年間ぐらいは後輩の練習によく参加したが、大学では合気道の関係のクラブ・サークルが無く、卓球部に入部しました。

高校と同様に、単純にまた女性が多く、綺麗な方が卓球部に多かっただけですが。

そのまま大学を京都で4年を過ごし、現在製薬企業で営業で働き昨年、福岡から東京に転勤になり社会人7年目。

常に合気道の練習を再開する機会を探ってはいましたが、全くの不定期な勤務日程・時間と約5年と決められた転勤で機会を失っています。

今回は練習ではありませんが、このように先輩方と「六稜合気会」を発足・参加することで合気道との繋がりが復活したことを大変嬉しく思っております。

ますますの「六稜合気会」の発展といつかは合気道の練習を行なえればと期待しております。

今後とも宜しくお願い申し上げます。